

松下幸之助著

銷售經驗集

中日對照
原音標註
詞句解析

寇牧生註譯

版權所有 翻印必究 特價：100 元

銷售經驗集

編著者：寇牧生
發行人：林世楨
發行所：建宏出版社
登記：局版台業字第1472號
總經銷：建宏書局
地址：台北市重慶南路一段63號
電話：3818884 ● 3314516
郵政劃撥：106910
發行日期：民國 70 年 1 月 出版

譯序

繼經營經驗集之後，這本銷售經驗集也相繼審核完竣，使我這編審工作，又得以暫時告一段落。仔肩上雖感輕鬆了很多，但精神上却深感壓力綦重。正如前篇經營經驗集譯序上所言：這先後兩書的編譯工作，都是在忙碌中完成的，疎漏之處，在所難免。固然編譯這本書時，較前篇諸多慎重，但能否為讀者滿意，是否受大眾歡迎？則不敢逆料。

這本銷售經驗集，顧名思義，自然是作者論述其有關銷售貨品的寶貴經驗；但其中却不時提到「如何作人，如何任事」的處世經驗與人生哲理；更以簡潔的筆法，作深入淺出的記述，是以情致極佳。使人閱讀之下，頗有不忍釋卷，再讀為快的感受。尤以第五章上所列日本各家家訓，各店店規等名言：孝悌友愛，勤儉憤發，各有所本，極盡其家族體系完美之能事。因而既感我國家族組織散漫之可歎；又感向所樂道的族譜美風也日漸式微之可悲了。

我國人文精華，率多於日本先後茁壯生根，進而成為其傲視世人之本源。有人感嘆其茶道、圍碁之風，已青出於藍了。其實其茶道、圍碁之風盛，祇是其餘事而已，而真正可歎可悲的，乃是我國的人文逐漸式微哩！那麼復興中華民族文化的大業，我們能不積極的推進嗎？

民國六十九年九月廿五日

寇牧生於台北市

銷售經驗集 目錄

譯序

まえがき（前言）	一
販売心得 一章（銷售經驗 第一章）	七
自分一人の商売ではない（不是自己一個人的生意）	一四
どれほど喜ばれているか（被顧客喜愛到什麼程度？）	二一
販売に成功するためには（成功的推銷之道）	二九
笑顔の景品を（以笑臉爲贈品）	三六
自分の店の力を判定しつつ（要先判斷自己店鋪的力量）	四二
声をかけるといふサービス（「打招呼」的服務）	四九
魂を入れた値段であれば（只要有誠意的價錢）	五七
商売冥利（經商善報）	六五
総合病院と町のお医者さん（綜合醫院和市上的醫生）	六五

新しい時代の値段（新時代的價格）	七二
販売心得 二章（銷售經驗 第二章）	
世間は正しい（社會是公正的）	八〇
対立と協調と（對立與協調）	八七
よしみを通じる（交誼）	九三
お得意先はわが親戚（顧客是我的親家）	一〇〇
お得意先の仕入係になる（做顧客的採購人）	一〇七
業界の安定は共同の責任（同業的安定乃是共同的責任）	一一三
二十人の小僧さんの顔（二十個學徒的面孔）	一一八
商品を大切に（要珍惜商品）	一二五
まずサービスからかれ（先從服務做起）	一三二
名君と忠臣（賢君和忠臣）	一三八
販売心得 三章（銷售經驗 第三章）	
お得意先のありがたさ（顧客的珍貴處）	一四五
呼びかける（號召）	一五二
商品を發意する（改進商品）	一五八

不景氣だからこそ（正因爲不景氣）	一六四
街の品位を高める（提高街上的品級）	一七〇
利は元にあり（利益存在於本源）	一七六
集金と支払いについていつも敏感に（經常提高收賬和付賬的警覺）	一八二
絶對安心の境地（絶對安心的境界）	一八九
明朗公正な競争を（明朗公正的競争）	一九六
販売心得 四章（銷售經驗 第四章）	二〇三
人を集める第一歩は（招求人的第一歩）	二〇九
長所を見つゝ（一方面要看他的長處）	二一六
人を育てるには（育人之道）	二二二
好きこそものの上手なれ（愛好能生巧）	二二八
一人の責任（一個人的責任）	二三四
人づくりは「打」ことから（造就人才，須從「打」起）	二四一
頼もしい思つて人を使う（任用你認爲可靠的人）	二四八
衆知を生かすために（集思廣益）	二五五
部下の提案を喜ぶ（鼓勵部下提案）	二五五

経営者の心根（経営者の精神）……………	二六二
ある問屋さんの立腹（某批發商的生氣）……………	二六七
販売心得 五章（銷售經驗 第五章）……………	
商売を進めるための基本・社是社訓（經商的基本・公司信條・公司訓詞）……………	二七五
三井家の家憲——初代高代——（三井家憲——第一代高利）……………	二八三
住友家の家則——広瀬宰平——（住友家則——廣瀬幸平）……………	二八七
岩崎家（三菱）の家訓（岩崎家（三菱）家訓）……………	二九一
松下電器の綱領（松下電器綱領）……………	二九六
あとがき（書後記）……………	三一

まえがき ①

これまで、^{わたくし}② 私^{まつしたでんき}が松下電器の経^{けい}営^{えい}にあた^あって③きたなか④で、^{しょうばい}商^{こころえ}売^えの心得^{こころえ}⑤として、⑥そのときどき⑦に^{はな}説^かし、また書^かいてきたものがいろいろ⑧あります。それら⑨をまとめ^た⑩ものがほしい⑪というお^{こえ}声^{きい}を最^{きい}近^{きん}ずいぶん⑫いた^いだ^く⑬ようになりました。そこでそのい^くつかをえら^らんで⑭みました。このようにま^まとめて見^み直^{なお}し⑮てみますと、^{けっきよく}結^{しょうばい}局^{ばい}、商^{しょうばい}売^{ばい}には、^{つぎ}次^きのよう^{きほんしせい}な基^き本^{ほん}姿^{しせい}勢^{せい}が^{たいせつ}大^お切^もだと思^{おも}いました。

つまり、⑯^{ぶつきょうと}仏^{かたがた}教^{せいかつ}徒^{たい}の方^{ほう}方^{ほう}⑰の生^{せい}活^{かつ}態^{たい}度^どは、^{あさ}朝^{れい}に^{れい}禮^{はい}拜^{はい}、^{ゆう}夕^{ゆう}べ⑱に^{かんしゃ}感^{かん}謝^{しゃ}とい^いますが、^{ひにちしごと}われわれ日^ひ日^{にち}仕^し事^{ごと}にた^たずさ^さわる⑲者^{もの}も、^{あさ}朝^{はつ}に^{ひる}発^{じつ}意^{こう}、⑳晝^{ひる}は^{じつ}実^{じつ}行^{こう}、そして^{ゆう}夕^{ゆう}べ^{はんせい}に反^{はん}省^{せい}、^{ひにち}こ^{かえ}う^{かえ}いう日^ひ日^{にち}を^{かえ}くり返^{かえ}し㉑たいとい^いうこと^{こと}です。同^{どう}様^{よう}に、^{まいげつ}毎^{まい}月^{げつ}、^{まいねん}毎^{まい}年^{ねん}の^はは

じめ②に発意^{はつい}、おわり③は反省^{はんせい}。そして五年^{ごねん}たったら、④その五年分^{ごねんぶん}を反省^{はんせい}する、そうすると五年^{ごねん}間に実行^{じつこう}してきたことのうち、よかった⑤こと、よくなかった⑥ことがある程度^{ていど}わかつて⑦くると思^{おも}います。

私^{わたし}自身^{じしん}の経験^{けいけん}では、おおむね⑧あやまち⑨ないと思^{おも}っていても、五年後^{ごねんご}あらためて⑩考^{かんが}えてみれば、半分^{はんぶん}は成功^{せいこう}だったが、半分^{はんぶん}はしなくてもいい⑪こと、失敗^{しっぱい}だった、ともいえる⑫ように思^{おも}うのです。そのように反省^{はんせい}しつつ⑬歩^{あゆ}むならば、⑭次の歩^{つぎあゆ}みをあやまち^{すく}少なく進^{すす}める⑮こともできるわけ⑯です。

要^{よう}するに商売^{しょうばい}というものは、この発意^{はつい}、実行^{じつこう}、反省^{はんせい}が大事^{だいじ}なことであり、私^{わたし}自身^{じしん}も、こういう基本姿勢^{きほんしせい}⑯をさらに重^{じゅう}要^{よう}視^ししていかなければ⑰と、あらためて痛感^{つうかん}している次第^{しだい}⑱です。と同時にこの本^{ほん}が多少^{たしょう}なりとも、⑲みなさまのご参考^{さんこう}になれば⑳まことに

しあわせです。

しょうわよんじゅうななねんじゅうにがつじゅうはちにち
昭和四十七年十二月十八日

まつしたさちのすけ
松下幸之助

【中文翻譯】

前言

在我主持松下電器期間，曾就經商須知，常常的發表談話和執筆著論。最近經各方面敦促，才將這些談話和文章加以搜集，特選擇其中若干篇，彙成本書。而今重讀本書，深覺經商者對經商問題，應該具備下列的基本態度。

那就是佛教徒們所稱的「清晨膜拜，晚間感謝」的生活態度。而我們每天從事工作者們也應該每天過着「早上立志、白天實行、晚上反省」周而復始的生活。同樣地，在每月、每年的開頭就立志，最後加以反省，如此經過五年之後，再將這五年加以反省，於是在這五年期間，對於實施的工作，那些是成功，那些是失敗的，都必須充分了解它的執行情形。

就我自己的經驗而言，當時認為應無問題的事情，但在五年後重新檢討時，竟發現只有一半是成功

的，而其他一半，則是原不該做的，甚至可以說是失敗的。如能逐一反省檢討，就可有助於減少下一步的錯誤了。

總之，就經商而言，這種立志、實行和反省的態度至為重要，我本人如果也不重視這種作事的基本態度而痛感就將隨之而生；同時，再就本書而言，如果能對閱者諸君的參考上稍能有所裨益，就是莫大的榮幸了。

一九七二年十二月十八日 松下幸之助

【註解】

- ① まえがき——名詞，原意是「寫在前面」，可釋為「序」或「前言」。
- ② これまで——名詞、副詞，有「從前、到此為止」的意思。
- ③ あたつて——是動詞「あた當る」的現在式，有「擔任、承擔」的含義。
- ④ なか——名詞，「裡面，中間」。
- ⑤ 心得——こころえ名詞，「須知、經驗」。
- ⑥ として——連語、格助詞，「作為……」。
- ⑦ ときどき——副詞，「常常的、時常的」。
- ⑧ いろいろ——是名詞，也是副詞和形容動詞。作「各式各樣」解釋。
- ⑨ それら——是多數的代名詞，作「那些個」解。

⑩まとめた——是動詞「まとめる」的過去式，作「彙集、整理」解。 ⑪ほしい——形容詞，「願望希望」。
 ⑫ずいぶん——副詞、形容動詞，「很厲害、很甚」。 ⑬いただく——動詞，是「もらう（接受）」的敬語。 ⑭えらんで——是動詞「選ぶ」的現在式。作「選擇」解。 ⑮見直し——他動詞，「重新看」。 ⑯つまり——副詞，「總之、就是說」。 ⑰方方——名詞，「大家、人們」。
 ⑱夕べ——名詞，「晚上」。 ⑲たずさわる——動詞，「參與、參加、有關於」。
 ⑳発意——名詞，動詞，「表示意見、述志」。 ㉑くり返し——動詞，「反複、重複」。 ㉒はじめ——名詞，「開始」。 ㉓おわり——名詞，「終結、完了」。 ㉔たったら——句，是動詞「経つ」的第二變化——現在式加助動詞「たら」而成的，全句有「若是經過」的意思。 ㉕よかった——是形容詞「善く」與文語動詞「あり」相結合成的形容動詞第二變化。（按「くあ」的約音爲「か」，即結合的初時爲「善くあった」）。文意爲「好了」。 ㉖なかった——是否定助動詞「なく」與動詞「

- ある「相結合的第二變化，下面接「た」表示過去，有「沒有了」的含意。（按「なかった」即「なくあった」的約音。㉗わかつて——是動詞「分る」的第二變化。「明白」。㉘おおむね——副詞，「大致、大約、大概」。㉙あやまち——名詞，「錯誤、過失」。㉚あらためて——副詞，「重新、再」。㉛しくなくてもいい——句，「不作也可以」。㉜いえる——動詞，「能說」。㉝つつ——接續助詞，「一面……一面；」㉞ならば——這是由文語動詞なる的未然形下接「接續助詞」而成的。含有「如果成爲」的意思。㉟進める——他動詞，「推進、使之前進」。㊱わけ——名詞，「理由、道理」。㊲基本姿勢——名詞，「基本態度」。㊳いかねば——是動詞「行く」與否定助動詞「ぬ（ん）」的第五變化（條件法—假定形）的結合形態。有「如果不……」的意思。
- ㊴次第——接續助詞，「馬上就……、立刻就……」。㊵なりとも——修飾助詞，「哪怕……也好」。
- ㊶なれば——是動詞「なる」的假定形變化，有「如果成爲……」的意思。

はんばいごころえ いっしょう 販売心得 一章

じぶんひとり しょうばい 自分一人の商売ではない

自分の商売は自分のもので、だから①すべて②自分ひとりの力^{ちから}でやっていける③ように思いがち④ですが、実はこれはとんでもない⑤錯覚^{さつかく}です。つまり、⑥自分のものであって、本当⑦は自分のものでないところ⑧に、商売^{しょうばい}の^{ひと}一つの眞実^{しんじつ}があるような気がする⑨のです。お得意さま⑩があればこそ、仕入先^{しいれさき}⑪があればこそ、⑫ということは一応^{いちおう}⑬誰でも^{だれ}考^{かんが}えるから、これに何^{なん}とか酬^{むく}いようとするそれはそれで結構^{けつこう}⑭です。

しかし、まだまだ⑮ほか⑯に、考えねばならないことがたくさん⑰あるようです。

たとえば、^⑩道路一つをとってみても、かりに^⑪これがなかった^⑫としたらどうします。毎日ちまいにち、^⑬共の道路を使っていますけれど、^⑭この路がなかったら、^⑮商売はたちまち^⑯お手あげ^⑰です。そうすれば、別にありがたいと思わず^⑱使っている道路にも、^⑲本当は^⑳酬いなければならない。^㉑どうすれば^㉒酬いられるか。それはつまりわれわれが税金を納めて、その税金で保全改良をはかるほかないわけです。そして、その税金を納めるためには、お互いに利潤をあげねばいけない^㉓ということになるのです。みんなが利潤をあげず、^㉔従って税金も納めず、^㉕しかも道路はてんで^㉖に使い放し^㉗になったら、道路はたちまち荒廃して、結局みんなが困ってしまいます。道路だけではありません。他にもお互いに公共の施設や機関をずいぶん利用しています。また警察、消防などの治安の面でいろいろと国家公共の保護を受けて

います。これら③の保護、助けあればこそ、商売と思えばやっぱり⑦懸命⑧に利潤をあけて税金を納め、これに酬いなければなりません。

ここに思いを致せば、⑨お互いに商売をしているかぎり、⑩ムダ⑪をはぶき⑫能率を高めつつ、適正な利潤をあげるといふことは、これは国民として⑬の一つの尊い義務でもあり、責任でもあるわけです。電話をかけるのも五回のところを三回です⑭方法はないかと工夫して⑮三回にへらし、⑯上質紙二枚のところを工夫して中質の紙一枚です⑰ます、そういうように工夫して経費を少なくし、利潤というものをあげるよう努力していかねばならないのです。このことを、自分も正しく自覚し、またお客さまにも力強く訴えて、適正な利潤を承認していただかねばならない⑱とおもいます。商売は結局お互いのため⑲なのです。これは非常に大事なことだと

おも
思うのですが、いかが④でしょうか。

【中文翻譯】

銷售經驗 第一章

不是自己一個人的生意

生意是自己的，因此一切都喜歡用自己獨力進行。其實這種想法是極不合理的錯覺。總之，生意乍看是自己的，而實則並不是自己的，裡面涵蓋着生意的一個真實性。任何人都會考慮到：祇要有顧客和供貨商，對他們設法給與酬報，那就一切都妥當了。

可是，除此之外，我們應該考慮的事情，還有很多很多。

譬如，以道路為例。如果沒有道路，則將如何呢？我們每天都在使用公共道路，甚至於用得勝其煩；假如沒有這些道路，則生意必將以此立刻停頓。思念及此，我們對從未懷有謝意而使用的道路，也就應該設法酬報才是。如何酬報法呢？那就是除了納稅，以所納稅捐來保養道路以外，則別無他途。爲了納稅，大家還須設法獲取利潤，因而不納稅，且各自濫用道路而不加維護，則道路必然會迅速荒廢，最後而導致大家的不方便。

不僅道路如此，其他我們所利用的，還有很多公共設施和機構。同時我們在警察、消防等治安方面也受到國家公共的各種保護。苟能設想到依賴着這些保護和協助才有生意可做，我們就應該努力獲取利